第４学年　道徳科学習指導案

に組　男子 18 名　女子 17　計 35 名

指　導　者　　福　　留　　忠　　洋

１　主　題　名　　温かい言葉

B「親切，思いやり」　**相手のことを思いやり，進んで親切にすること。**

２　主題について

⑴　主題の位置とねらい

この期の子どもたちは，これまでに，学校での様々な活動や生活場面において様々な人と触れ合うことを通して，相手の気持ちを考えたり，相手の気持ちを理解したりすることができつつある。また，相手の状況を自分のこととして考え，親切な行いをすることの大切さを感じるようになってきている。しかし，自分本位な考えや羞恥心から，相手のことを考えて，進んで親切な行いをすることの大切さを理解しつつも，相手の状況や気持ちを自分ごととして考えた親切な行いまでに至っていない。このようなことから，この期の子どもたちに，相手の状況や心情を自分ごととして捉え，進んで親切な行いをしようとする態度を育てる必要がある。

そこで，**本主題では，相手のことを思いやり，親切な行いをしようとしつつも，相手に親切な行いとして伝わらない場面で生じる心情や心情の変化を，自らの生活場面での内面と関係付けて類推しながら追究する活動を通して，相手の置かれている状況や心情を自分のこととして考えながら，親切にすることの大切さを理解し，自ら進んで親切な行いをしていこうという気持ちを大切にする心情を育てることをねらいとしている。さらには，相手のことを思いやり，進んで親切にしていこうとする生き方は，相手に対する思いやりの気持ちや親切な行いについての自分自身の捉えを見つめ直すことが，よりよい人間関係づくりを実現していくことに繋がることのよさを実感し，これからの生活に生かしていこうとする意欲を高めていくこともねらいとしている。**

このような学習を通して身に付けた見方・考え方・感じ方は，誰に対しても思いやりの心をもち，相手の立場に立って親切にする生き方を深く追究していく学習へと発展していく。

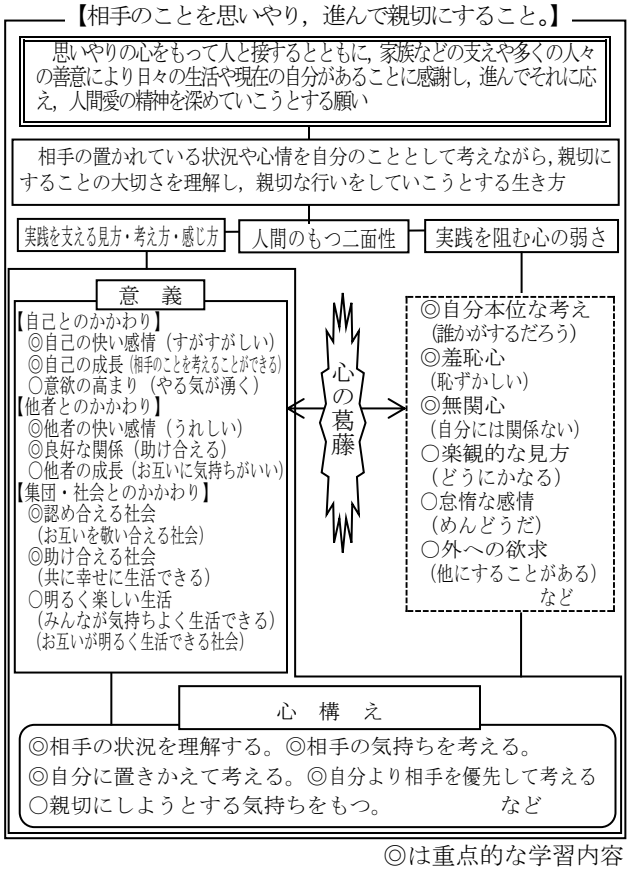
⑵　指導の基本的な立場

相手のことを思いやり，進んで親切にすることについて，人間のもつ二面性に着目して人間理解を深めるという立場から分析すると右の図のようになる。

相手のことを思いやり，進んで親切にすることとは相手の置かれている状況や心情を自分のこととして捉えながら，相手の立場に立った親切な行いをしていくことであると捉えることができる。

ここでは，思いやりの心をもって人と接するとともに，家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し，進んでそれに応え，人間愛の精神を深めていこうとする願いの基に相手の置かれている状況や心情を自分のこととして考えながら，親切にすることの大切さを理解し，親切な行いをしていこうとする生き方とし，その実践を支える見方・考え方・感じ方（意義や心構え）と実践を阻む心の弱さの両面から，人間理解を深めていくことになる。

具体的には，相手のことを思いやり，進んで親



◎は重点的な学習内容

切にすることで，自己の快い感情や自己の成長につながること，さらには他者との良好な人間関係を築けたり，お互いを認め合える生活を築いていけたりすることにつながることを理解させる。また，それらの実現に必要な心構えとして，「相手の状況を理解する」「相手の気持ちを考える」「自分に置き換えて考える」「親切にしようとする気持ちをもつ」ことも理解させる。そして，これらの意義や心構えを深めたり広げたりするために，相手の置かれている状況や心情を自分のこととして捉え，相手の立場に立った親切な行いをしていこうという気持ちをもちながらも，自分本位な考えや羞恥心などの心の弱さから，なかなか実践できないことについても理解を深めたり広げたりする。

このような内容にかかわる生き方への共感を高めるために,本主題では読み物教材「温かい言葉」（学研教育みらい）を取り上げることにした。この教材は次のような粗筋である。

足の不自由な少年を見かけた主人公が手助けしようと思うが声を掛けられないでいるとその少年に近くを通りかかった青年が声をかける。しかし，少年はその手助けを断るが，声をかけた青年もそれを快く受け入れ，少年を励ます。その様子を見た主人公は，本当の親切とは何かを深く考えさせられる教材である。

この教材を扱うに際し，話の内容の理解を深め，相手のことを思いやり，進んで親切にすることについて考えさせるために，一枚絵を活用する。また，子どもたちの生活場面を振り返らせながら関係付けて類推させるようにし，親切な行いをする時の心情や心情の背景について自我関与させる。

具体的には，まず，自ら立てた課題を追究するために，教材一読後の感想から青年が少年に親切な行いとして声をかけた場面に焦点化し，親切な行いについてそれぞれの捉えを表出させる。次に，少年に声をかけた青年の心情やその背景について，相手の状況を考えて行動したにも関わらず，相手から断られてしまったときに生じる気持ちについて自分の生活場面と関係付けて追究させる。その際，ここでの道徳的価値にかかわる見方・考え方・感じ方を多面的・多角的にとらえさせながら，自分なりの道徳的価値観を再構成させるようにするために，他の見方・考え方・感じ方と比較しながら追究できるようにさせる。さらに，授業の中で感じたことを自らの生活場面と関係付けて考えさせたり,今までの自分の生活と比較させて考えさせてまとめたりすることを通して，生活場面での意欲や態度を高めるようにする。

このような過程を重視する学習を通して得られる能力や態度は，相手のことを思いやり，進んで親切にすることを理解し，それらを実際の行為へと移し他者と調和的に生活していくことを目指した生き方をしていこうとする喜びや楽しさとなり，自分の生き方についての考えを深めることにつながり，豊かな自分の生き方を追究し続けることになると考える。

⑶ 子どもの実態

本学級の子どもたちの相手のことを思いやり，進んで親切にすることにかかわる感情や実践を阻む心の弱さ，実践を支えるための心構え，実践を支える見方・考え方・感じ方（意義）に対する認識は，以下の通りである。

［表１］親切な行いに対する捉え（総反応数 35）

親切な行いに対する捉え	反応数（人）	親切な行いに対する捉え	反応数（人）
席をゆずる，くつを並べる等	16	困っている人を助ける	12
やさしくする	7		

［表２］実践を阻む心の弱さについての認識　（総反応数 39）

心の弱さ	反応数（人）	心の弱さ	反応数（人）	心の弱さ	反応数（人）
考え事や急いでいる	13	いらいらしている	10	嫌な気持ちにされたとき	7
めんどうくさい	4	気分が乗らない	4	怠惰な感情（めんどう）	1

［表３］実践を支える見方・考え方・感じ方（心構え）（総反応数 35）

見方・考え方・感じ方	反応数（人）	見方・考え方・感じ方	反応数（人）	見方・考え方・感じ方	反応数（人）
自分のことを考えないで相手のことを考える	13	相手を思う気持ちもつ	10	優しくしようとする気持ちをもつ	5
自分にも返ってくる	4	広い心をもつ	2	みんなの気持ちを考える	1

［表４］実践を支える見方・考え方・感じ方（意義）（総反応数 102）

	見方・考え方・感じ方	反応数(人)		見方・考え方・感じ方	反応数(人)	見方・考え方・感じ方		反応数(人)
対自己	うれしい	15	対他者	相手が喜ぶ	20	対集団・社会	お互いを助け合える社会	17
	自分によいことがある	8		良好な関係	10		快適な社会	10
	気持ちがすっきりする	5		信頼し合える	3		お互いを認め合える社会	9
	またしたくなる	4		安全に過ごせる	1			

［表１］から親切な行いに対する捉えについては，「席をゆずる，くつを並べる」「困っている人を助ける」「やさしくする」といった捉えをもち，親切な行いについて，具体的な行為を親切として捉えていたり，相手の状況を考えた上での行為を親切として捉えたりしている。また，「やさしくする」のように相手に対して自分なりの心情を基にして親切を捉えている子どももいる。また，［表２］の実践を阻む心の弱さについての認識については「考え事や急いでいる」「いらいらしている」「嫌な気持ちにされた」などの心の弱さが原因であると感じている子が多い。さらに，［表３］から，「自分のことを考えないで相手のことを考える」「相手を思う気持ちをもつ」「優しくしようとする気持ちをもつ」など相手の立場に立って考える心構えの大切さを感じている子どもが多い，また「自分にも返ってくる」など親切な行いを自分自身と関連させて心構えを捉えている子どももいる。［表４］からは，「うれしい」「相手が喜ぶ」，「お互いを助け合える」という意義を感じている子どもが多く，親切な行いのよさや意義について多面的に捉えられている。

そこで，**相手のことを思いやり，進んで親切にすることの意義を理解することにかかわる「相手が喜ぶ」「お互いを助け合える」などの意義と「自分のことを考えないで相手のことを考える」「相手を思う気持ちをもつ」などの心構えを十分に関連付けて考えさせたり，親切な行いが相手に伝わらない場面での心の弱さを対比的に考えさせたりして，親切な行いを支える相手のことを思いやる気持ちについて重点的に考えさせていく。**

一方，道徳科においては，本学級の子どもたちは，登場人物の心情やその背景と自らの生活場面を関係付けてとらえることはできるが，それらを生活経験の異なる子どもと積極的に交流し，自らの道徳的価値に対する見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりしようとするまでは至っていない。そこで，自らの生活場面と関連付けて考えさせるために，多様な見方・考え方・感じ方について生活場面を想起させながら重点的に考えさせたりすることを通して，学んだことと自分の生き方とのかかわりを意識させながら追究するような働きかけを具体化していく。

⑷　指導上の留意点

本主題の指導を展開するにあたっては，相手のことを思いやり，進んで親切にすることのよさを子どもたち同士がお互いの見方等を大切にしながら主体的に追究することを通して，実感を深める中で，子どもたちがこれまでの様々な体験で感じてきた道徳的価値にかかわるよさが，これからの生き方へと連続，発展していくようにしたい。

ア　この内容にかかわる生き方についての切実な問題意識をもたせるために，**自分なりの捉えを他の見方・考え方・感じ方と比較して考えさせることで，子ども一人一人が考えていきたい問題を設定させるようにする。**

イ　子ども自らの価値観と比較させながら追究させるために，相手を思いやる気持ちがありながらも相手に伝わらない場面に焦点化する。その際，**声をかけた青年に対する子ども自らの見方等を表出させるために，子どもたちの設定した問題を基にした発問を行い，課題を明確にする学び合いを行う。**

ウ　これからの生活の中で生かしていこうとする意欲を高めるために，設定させた学習問題を基に自分の生き方にかかわる見方等を振り返らせる。その際，書く活動を取り入れ，自らの立てた課題に対する見方等が生かされる場面を明確にさせ，それらが自分のこれからの生き方の中でどのような場面で生かしていけるかを具体的にまとめさせる。それらの場面と関連した説話を行い，期待感をもつことができる場を設定する。

3　本　時

(1)　ねらい

ア　相手のことを思いやり，進んで親切にすることにかかわる内容についての自分自身の生き方を見つめ，相手の状況を理解して，進んで親切にしていこうとする気持ちを高めることができる。

イ　相手のことを思いやり，進んで親切にすることにかかわる見方・考え方・感じ方を他者とのかかわりの中で自らの体験場面での内面と関係付けて，類推しながら深めたり広げたりすることができる。

ウ　相手のことを思いやり，進んで親切にすることにかかわる内容について，お互いを敬え合える，周囲の気持ちを考える，きまりの意義を考えるなどの意義や心構えの大切さについて自分の生き方とのかかわりを通して理解することができる。

(2)　指導にあたって

自らの生活場面において自問自答させながら追究させるために，**「自分の気持ちが伝わらなくてもよいか」と問い，「相手の状況を理解する」「自分と置き換えて考える」などの心構えや「お互いを敬える」「一人一人が守ることが大切」などの意義と関係付けて考えさせる。**

(3)　実　際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
気付く	1　考えていきたい問題に気付く。 ・相手を思う気持ち ・親切な行為 ⇔ ・いらいらする ・やる気がでない。 ⇩ 親切とは何か	(分) 8	○　親切な行いついての自己の捉え方を明確にさせるために，**「親切な行いが相手に伝わらない時はどんな気持ちだろうか」**と問い，自分の見方等と友達の見方等を比較させ，矛盾や疑問から問題意識を高めさせる。
さぐる	2　教材「温かい言葉」を読み，考えていきたい問題について話し合う。 (1)　お兄さんの言動や心情について感想をもち，行動を変えた背景について話し合う。 【少年に対する行動を変えたお兄さんの心情】 少年のために何かしてあげたい。 ⇒少年に手を貸してあげたい。 ⇒少年の気持ちを大切にしたい。 ⇒少年が喜んでくれたらいい。 【心の弱さ】 ・　急いでいる。 ・　いらいらする。 ・　自分には関係ない 【心構え】 ・　相手の状況を理解する。 ・　自分と相手を置きかえて考える。 ・　ほおっておけばよかった。 ・　やらなければよかった。 ・　相手の気持ちを理解することが大切だ。 ・　自分の気持ちより相手のことを考えたい。 【意　義】 相手が喜ぶ→すがすがしい→助け合える→お互いを認め合える→共に幸せに暮らせる　など	28	○　相手のことを考えた行為が，相手に伝わらない場面での心情やその背景をお兄さんの行動を通して考えさせるために，自分の問題設定と関係付けて読み取らせる。その際，親切な行いを支える自分自身の見方等を明確にした上でそれらを支える道徳的価値について話し合わせる。 ㊫　**「お兄さんの行動はどこからが親切といえるだろうか。」** ○　**「親切である」「親切とは言えない」「どちらとも言えない」などのそれぞれ見方等を基に考えさせるために，多様な道徳的価値観を受容する場を設定する。その際，自由に相手を変えて話し合わせたり，異なる見方等を意図的に交流させたりしながら，ここでの心の弱さや意義や心構えについて考えさせる。**
見つける	(2)　今までの生き方を振り返り，自分や友だちの考えで感じたことや考えたことについて話し合う。 相手の気持ちを第一にして考えることが大切だな。		○　**「自分の気持ちが伝わらなくてもいいだろうか」と問い，親切な行いにおける「相手の状況を理解する」「自分と置き換えて考える」などの心構えや「相手が喜ぶ」「すがすがしい」助け合える」などの意義と自分の生活場面と関係付けて考えさせる。** ○　道徳的価値のもつよさや意義についての見方等を生活場面と関係付けて捉えさせるために，自分なりの考えを今までの見方等との違いを明確にしながらに端的にまとめさせる。
深める	3　学習したことを振り返り，自分の考えていきたい問題に対して，自分なりの考えをまとめる。 今まで自分の気持ちを優先することがあったけど，考えが変わったな。 	6	㊫「今日学んだことは，これからの自分の生活の中でどんなときに生かせそうですか。」 ○　新たにに再構成された道徳的価値観を基に，これからの生き方について，具体的に生かせそうな場面を想起させ，振り返させる。その際，グループ内で発表し合う場面を設定し，意欲化を図る。
見通す	4　相手のことを思いやり，進んで親切にすることについて教師の説話を聞く。	3	○　学習したことの価値付けとこれからの生き方について期待感をもたせるために，説話を行う。